

千日尼御前御返事

弘安元年閏一〇月一九日 五七歳

青鳧一貫文・干飯一斗・種々の物給び候ひ了んぬ。

仏に土の餅を供養せし徳勝童子は阿育大王と生まれたり。仏に漿をまひらせし老女は辟支仏と生まれたり。法華経は十方三世の諸仏の御師なり。十方の仏と申すは東方善徳仏・東南方無憂徳仏・南方栴檀徳仏・西南方宝施仏・西方無量明仏・西北方華徳仏・北方相徳仏・東北方三乗行仏・上方広衆徳仏・下方明徳仏なり。三世の仏と申すは過去莊嚴劫の千仏・現在賢劫の千仏・未来星宿劫の千仏、乃至華嚴経・法華経・涅槃経等の大小・権実・顕密の諸経に列なり給へる一切の諸仏、尽十方世界の微塵数の菩薩等も、皆悉く法華経の妙の一字より出生し給へり。故に法華経の結経たる普賢経に云はく「仏三種の身は方等より生ず」等云云。方等とは月氏の語、漢土には大乘と翻ず。大乘と申すは法華経の名なり。阿含経は外道の経に対すれば大乘経、華嚴・般若・大日経等は阿含経に対すれば大乘経、法華経に対すれば小乗経なり。法華経に勝れたる経なき故に一大乗経なり。例せば南閻浮提八万四千の国々の王々は其の国々にては大王と云ふ。轉輪聖王に対すれば小王と申す。乃至六欲四禪の王々は大小に渡る。色界の頂の大梵天王独り大王にして小の文字をつくる事なきが如し。仏は子なり、法華経は父母なり。譬へば一人の父母に千子有りて一人の父母を讃歎すれば千子悦びをなす。一人の父母を供養すれば千子を供養するになりぬ。又法華経を供養する人は十方の仏菩薩を供養する功德と同じきなり。十方の諸仏は妙の一字より生じ給へる故なり。譬へば一つの師子に百子あり。彼の百子諸の禽獸に犯さるゝに、一つの師子王吼ゆれば百子力を得て、諸の禽獸皆頭七分にわる。法華経は師子王の如し、一切の獸の頂とす。法華経の師子王を持つ女人は、一切の地獄・餓鬼・畜生等の百獸に恐るゝ事なし。譬へば女人の一生の間の御罪は諸の乾草の如し。法華経の妙の一字は小火の如し。小火を衆草につきぬれば、衆草焼け亡ぶるのみならず、大木大石皆焼け失せぬ。妙の一字の智火以て此くの如し。諸罪消ゆるのみならず、衆罪かへりて功德となる。毒薬変じて甘露となる是なり。譬へば黒漆に白き物を入れぬれば白色となる。女人の御罪は漆の如し。南無妙法蓮華経の文字は白き物の如し。人は臨終の時、地獄に墮つる者は黒色となる上、其の身重き事千引の石の如し。善人は設ひ七尺八尺の女人なれども色黒き者なれども、臨終に色変じて白色となる。又軽き事鷲毛の如し、軟らかなる事兜羅綿の如し。

佐渡の国より此の国までは山海を隔て千里に及び候に、女人の御身として法華経を志しますによりて、年々に夫を御使ひとして御訪ひあり。定めて法華経・釈迦・多宝・十方の諸仏、其の御心をしろしめすらん。譬へば天月は四万由旬なれども大地の池には須臾に影浮かび、雷門の鼓は千万里遠けれども打てば須臾に聞こゆ。御身は佐渡の国にをはせども心は此の国に来たれり。仏に成る道も此くの如し。我等は穢土に候へども心は靈山に住むべし。御面を見てはなにかせん。心こそ大切に候へ。いつかいつか釈迦仏のをはします靈山會上にまひりあひ候はん。南無妙法蓮華経、南無妙法蓮華経。恐々謹言。

後十月十九日

日 蓮 花 押

千日尼御前御返事